

痕

-NOK-

アキコ	(5)	登場人物
ミドリ	(3)	
マサヤ	(4)	
シゲル	(3)	
ヤグチ	(3)	
電気屋の男	(2)	
サキ	(2)	
リエコ	(5)	

0

四人掛けのソファセット。  
壁にエアコン。前面のふたが開いている。  
エアコンの下に脚立が一つ。  
脚立の下に新聞紙が敷かれてある。新聞紙はエアコンから垂れた水で汚れている。  
引き出しのある電話台。  
その上に電話。

※

蝉の声。

昼前。スプレー缶を片手に、マサヤが電話している。

マサヤ……いや、一週間、より、もうちょい、十日くらい前から……みたいなんですけど、ぼたぼたぼたぼた垂れだして……ええ、ええ。それで、自分で掃除してみた……らしいんですよ、フィルター外して、水洗いして。で、ぜんぜんダメなもので、それで、これ……これ……これ……っていつても見えないか……ほら、あるじゃないですか、スプレーのやつ。泡のやつ。そうそう。それをね、ホームセンターで買ってきて、やってみたわけですよ、プシューって。そしたらそれつきり、ウンともスンともいわなくなつて……。

マサヤが電話している間に、シゲルがドライバーを手に現れ、脚立に上る。

マサヤ ええ、ええ……えっ!? ちよつと、シゲルくん、何してんの?!

シゲル 何って、中、開けて調べてみるんですよ。

マサヤ (電話に) あ、いやいや、こつちの話。(通話口を手で押さえ) ……止しなよ。

シゲル え?

マサヤ 下手にいじくつて、これ以上ややこしくしない方がいいよ。今、電気屋に、修理お願いしたからさ。

シゲル いつですか？  
マサヤ だから、今。

シゲル いや、電気屋さん、いつ、来てくれるんですか？

マサヤ ああ。(電話に)で、いつ、来てくれるんですか？ ええ、そりゃ早い方が……そう！(通話口を手で押さえ)シゲルくん、俺たち、ツイてるよ！ ちょうど、一人、修理の人が空いてるってさ。

シゲル はあ。

マサヤ (電話に)じゃあ、それで。え？ 住所？ ああ、えつと……。

シゲル 代わりますよ。

マサヤ おお。(電話に)今、若いのと代わります。

シゲル、ドライバ―を置き、電話を代わる。

マサヤ、煙草とライターを取り出す。が、煙草は空である。

シゲル もしもし。はい。日の出町6の1の41です。……ええ、大丈夫です。その時間、誰かし

らいるようにしときますから。……はい。じゃ、お待ちしてます。(電話を切る)

マサヤ 急に一軒、キャンセル入ったんだって。

シゲル みたいですね。

マサヤ やれやれ。とりあえず、これで一件落着、と。シゲルくん、煙草ある？

シゲル 吸わないいで。

マサヤ え？

シゲル やめたんですよ。

マサヤ いつ？

シゲル とつくの昔。

マサヤ なんて？

シゲル なんてってこともないですけど……。

マサヤ ああ、そうなの。

マサヤ、シャツの胸元をつまんでばふばふさせながら、窓（舞台前）へ。

マサヤ （窓の外を見て） しかしもう、ほとんど完成だね。

シゲル え？

マサヤ マンション。

シゲル ああ。

マサヤ 反対運動の署名も虚しく。

シゲル ……。

マサヤ 昔は、ここいら、木造の平家ばかりだったんだよ。ほんの十年前まで。

シゲル ええ、知ってます。

マサヤ ちようど十年前だよ。俺が、はじめてこの家、来たの。ほら、そこ。そこに正座して、「娘さんをボクにください」なんつって。ミドリも、しおらしく着物なんか着ちゃってさ。そして俺、足しびれちやって、便所行こうとしたら、バレリーナだよ、バレリーナ。……バレリーナっていうの？ 男の場合も。知りませんよ。

マサヤ 「十年ひと昔」っていうけど、変わるよね、十年経つと、いろいろ。（ふたたび窓の外に目をやり）けど、聞いてたより、ずいぶん高いな。これじゃあ、そこいら一帯、ぜんぜん陽が当たらなくなっちゃうんじゃないの？

シゲル （ムキになり）そんなことありませんよ！

マサヤ え？

シゲル 法的には何の問題もないし、日照権の補償だって、事前の説明会でちゃんと近隣住民の了承を得てるんですから。

マサヤ え、そのマンション、シゲルくんとこの物件だったけ？

シゲル ええ。賃貸の管理だけですけど。

マサヤ あちやー。悪い悪い。そうとは知らずに、俺、建設反対の署名、しちゃった。だって、ほら、お義父さんに言われて……。

シゲル そもそも、あの人に、そんな「運動」なんかやる資格ないんですよ。この家だって、べつにあの人の持分なんか、ないんだし……。

マサヤ いや、でも、ほら、付き合いついていうかき、ご近所でそういう気運が高まれば、賛同しな

いわけにいかなかったんじゃない？ 空気だよ、空気。

シゲル ……。(ドライバーの向きを変える)

マサヤ 何？

シゲル いや、こっち向いてたから……。

マサヤ え？

シゲル 尖ってるの、こっち向いてると、気持ち悪いでしょ？

マサヤ ああ……そう、ね……。

タクシーの停まる音。

マサヤ あ。やべ。帰ってきた。

マサヤ、スプレー缶を置き、部屋を出て行こうとする。

シゲル え、どこ行くんですか？

マサヤ んん……便所、便所。便所のバレーナ。

マサヤ、去る。



シゲル ……。

腹の大きなミドリが現れる。

ミドリ ただいま。うわ！ あっつ！

シゲル あ、おかえり。

ミドリ 何なの、この部屋？

シゲル エアコン、動かなくなっちゃったんだよ。

ミドリ え？ なんでよ？！

シゲル お義兄さん、説明書、読まない人だから。

ミドリ は？

シゲル 水漏れ、直そうとしてさ。ちゃんと電気の養生しねえで、それ、（と、スプレー缶を）ヤミクモにぶっかけるんだもん。

ミドリ ……。で、マサヤは？

シゲル 便所だつて。

ミドリ ダメよ、あの人の「便所」を真に受けちゃ！

シゲル え？

ミドリ ちよつと、マサヤ！

ミドリ、去る。  
と、アキコ、現れる。

アキコ ただいま。あッつ！  
シゲル あ、おかえり……。  
アキコ 何なの、この部屋？

ミドリ、戻ってくる。

ミドリ あのやろ、勝手口から逃げやがった！

アキコ え？

ミドリ たく……。  
の？

シゲル しょうがないよ。やっちゃったもんは、やっちゃったんだから。それより、どうだった

アキコ 何？

シゲル 病院。

アキコ どうって？

ミドリ 冷房？

シゲル 違うよ。父さん。

ミドリ ああ。まあ、相変わらずよ。リハビリもしないでテレビばかり見てる。  
シゲル そう。

ミドリ ママ、扇風機、どうした？ あの、調子悪いやつ。捨てちゃった？  
アキコ 捨ててはないと思うけど。二階かな？

ミドリ 二階。

シゲル ああ、いい、いい。俺、見てくるから。でかい腹してあんまり動きまわんなよ。  
ミドリ ま。シゲルちゃんたら、優しいこと言っちゃって。

シゲル ちゃん、言うな、ちゃんて！ 見てるこつちがヒヤヒヤすんだよ。

シゲル、去る。

ミドリ ふう……だる……。 (と、ソファに座る)

アキコ、テーブルの上のアイスの空箱をゴミ箱に捨てる。

アキコ ミドリ。お昼、どうしようか？

ミドリ ん？

アキコ 何か、出前とる？ 冷たいお蕎麦でも。

ミドリ ああ、そうね……。

アキコ、電話台にかかった蕎麦屋の〈お品書き〉を取って来る。

アキコ なんにする？  
ミドリ 見して。

アキコ、ミドリに〈お品書き〉を渡す。

ミドリ ママは？

アキコ あたし、普通のでいいや。

ミドリ 何？ 普通のって。

アキコ もり蕎麦でいいや。

ミドリ もり、かあ……。あ。サキちゃん、お昼食べて来るのかな？

アキコ ああ。どうだろう？

ミドリ いつまでいるって？

アキコ とりあえず、セツコが退院するまで、預かって欲しいって。

ミドリ そう。セツコおばちゃん、痩せたよね。

アキコ うん。

ミドリ まあ、無理もないけどね。でも、叔父さんのやり方も、あたし、どうかと思うな。サキち

やんの言い分も聞かないで、強引に連れ戻すなんて。サキちゃんだって、もう二十歳よ。いつまでも子供じゃないんだからさ。

アキコ 子供よ。二十歳なんて。

ミドリ そりゃ、そうだけど、それにしたって……。

アキコ だって、もし将来、サキちゃんがその人と「結婚」なんてことになったら、叔父さん、自分より年上の男に「お義父さん」とか呼ばれちゃうのよ？

ミドリ まあ、叔父さんの気持ちも、わからないじゃないけどさ……。あたし、これにしてみよっかな。冷やしスタミナ。900円。サキちゃんの分も、同じの、たのんどけばいいね。

アキコ マサヤくんは、お昼、どうするんだろ？

ミドリ ……いいのよ、あれは。ほっとけば。

玄関で、ヤグチの声。

ヤグチ (声) ごめんくださあい。

アキコ はい。

アキコ、去る。

ミドリ、溜息をつき、〈お品書き〉を眺めている。  
やがてアキコの声がする。

アキコ (声) どうぞ。  
ヤグチ (声) どうも……。

ヤグチ現れる。手に三脚と紙袋、背中にリュック、首にカメラという出で立ち。

ヤグチ あっつ！

ミドリ ヤグチくん。

ヤグチ あ、お姉さん。お久しぶりです。

ミドリ 仕事は？ もう、デパート、終わり？

ヤグチ いや、半休です。

ミドリ は？

ヤグチ 半日休暇。

ミドリ ああ。何か、あるの？

ヤグチ 流星群なんですよ。

ミドリ りゅーせーぐん？

ヤグチ ペルセウス座流星群。

ミドリ はあ。

ヤグチ 早い話が、流れ星がいっぱい流れるんです。

ミドリ こんな時間に？

ヤグチ え？ いや、夜になったらですけどね、もちろん。仕事してても、どうも落ち着かなくて……。

ミドリ ああ、そうなの。

アキコ、お盆に麦茶を載せ、現れる。

アキコ ヤグチくん、荷物、下ろしたら？

ヤグチ あ、はい。じゃ、失礼して……。 (荷物を下ろす。窓外に目をやり) あれ？ マンション、完成したんですね。

アキコ どうぞ。

ヤグチ あ、どうも。

と、シゲル、扇風機を抱えて戻ってくる。

シゲル あった、あった。

ヤグチ よ。

シゲル おお、早いな。あ、母さん、拭くもん、ある？  
アキコ ふくもん？

シゲル 雑巾。  
アキコ ああ、雑巾、雑巾……。

アキコ、去る。

ヤグチ (麦茶を飲み) かー、生き返る！

シゲル 日没まで、まだだいぶあるぞ？

ヤグチ 明るい内に、荷物をね。

シゲル ああ。

ヤグチ 俺、車、駐車場に入れてくるわ。じゃあ、お姉さん、また。

ヤグチ、去る。

ミドリ シゲルは？ 何にする？

シゲル ん？

ミドリ お蕎麦とるけど。

シゲル ああ。何があんの？

ミドリ (メニューを読み上げる) もり500円、大もり600円、ざるそば600円、つけとろろ

そば700円……。



シゲル、扇風機をいじっている。

ミドリ こっからは夏季限定メニュー。冷やしたぬき650円、冷やしきのこ700円、冷やしスタミナ900円、各品大盛りは100円増しです。

シゲル、埃をふっと吹く。

白い埃が派手に舞う。

シゲル、咳き込む。

ミドリ ……聞いてる？

シゲル ……え、何？

ミドリ もうっ、自分で見てよ。

ミドリ、メニューを投げる。そしてバッグから妊婦用の雑誌を取り出し、読む。

シゲル (メニューを拾い上げ) 姉さんは？ 決めたの？

ミドリ 決めたよ。

シゲル 何？

ミドリ 冷やしスタミナ。 900円。

シゲル スタミナって？

ミドリ 知らない。

シゲル ……。俺、もりでいっかな……。あ、だめじゃん、これ。

ミドリ え？

シゲル 「毎週、水曜は定休日です」って。今日、水曜日じゃん。

ミドリ ああっ……。

電話が鳴る。

シゲル (出て) はい。……ああ…… (ミドリに目をやり) ええ、いますよ、そりゃあ。え？ (テー

ブルの下を覗き込む) いや、ちよつと、見当たんないですけど……。

ミドリ マサヤ？

シゲル ええ、ええ……。 (電話に対応しながら、ミドリに頷く)

ミドリ、電話を代わるようにとシゲルに合図。

シゲル (電話に) あ、ちよ、ちよつと待ってください。

ミドリ、シゲルから受話器を奪う。

ミドリ あんた！ なに考えてんのよ！

そこへアキコ、雑巾を持って現れる。

アキコ（シゲルに）これ……。

ミドリ 今、どこよ？ そんなこと聞いてないでしょ！ あんたが今いる場所を聞いてんの！

アキコ（その剣幕に驚き、シゲルに）お蕎麦屋さん？

シゲル 違う、違う。

ミドリ はあ？ あんたバツカじゃないの？ 誰もそんなこと言ってやしないでしょうが！ だから、それはしようがないわよ、やっちゃったもんは、やっちゃったんだから。あたしはそのあとのことを言うてんの！ こここそ逃げ出すようなマネ、すんなって。……じゃ、なにか？ 一生、そうやって逃げ続けるのか？ 都合の悪いことが起るたんびに、便所虫みたいに逃げ回るつもりなのか？

シゲル ちよっと、姉さん、便所虫は言い過ぎだよ。

ミドリ あんたは黙ってて！ これは夫婦の問題なんだから。

シゲル ……。

ミドリ もしもし……あ！ あのやろ、切りやがった……。

アキコ ……。

シゲル 財布なくしたんだって。

アキコ え？

シゲル お義兄さん。

アキコ ああ、なんだ、マサヤくんか。びっくりしたあ。

シゲル 母さん、見てない？

アキコ 何？

シゲル 黒い革の財布。

アキコ ああ、ううん。見てない。

シゲル どこやったんだろう？

ミドリ いいのよ。

シゲル いいこたないだろ？

ミドリ あたし、持ってるもの。

シゲル え？

ミドリ あの人にお金持たせとくとロクなことにならないから、あたしが預かるようにしてんの。

うまく盗み出したつもりだったらしいけど、盗み返してやったわよ。そういうとこまでツ  
メが甘いのよ。

シゲル ・アキコ ……。

玄関でチャイムの音。

アキコ はあい。  
ミドリ サキちゃんかな？  
アキコ んん。

アキコ、去る。

シゲル え、サキちゃん？ 帰ってきてんの？  
ミドリ ん……。

シゲル ああ。夏休みか。大学生は。

ミドリ や、それがね……。

シゲル え？

アキコの声 どうぞ……。

リエコの声 どうも……。

ミドリ 違ったみたい。

シゲル うん。

アキコに促され、リエコ、現れる。

シゲル あ！

リエコ ……！ (シゲルに小さく会釈)

シゲル ……。 (小さく会釈)

リエコ そうだ、これ。(とアキコに紙袋を掲げ) そのの、稲荷寿司。お好きかどうか、わかりませ  
んけど。

アキコ ああ、わざわざ……。

リエコ 急にお邪魔して、お昼まだだったら、あれだなと思って。

アキコ それは、どうも……。

奇妙な間。

アキコ、稲荷寿司を受け取ったまま、棒立ちである。

ミドリ ……ママ。

アキコ え？

ミドリ 座ってもらったら？

アキコ ああ……そうよね……。 (椅子を勧め) どうぞ。

リエコ はい。(座る)

ミドリ 何か、飲み物を……。  
リエコ どうぞ、おかまいなく。  
ミドリ 何か、冷たいものでも。

ミドリ、去る。

シゲル (アキコに手を伸ばし) それ。冷蔵庫、入れとくから。  
アキコ ああ、うん。(稲荷寿司を渡す)

シゲル、去る。

リエコと向かい合わせにアキコ、座る。

リエコ 驚いた。

アキコ え？

リエコ そのマンション、こないだ、不動産屋で、シゲルさんに案内してもらったんです。

アキコ ああ。

リエコ そういえば、あのとき、近くにお住まいだっておっしゃってました。けど、まさかこの家の方だなんて……。

アキコ リエコさんは、今、どちらに？

リエコ え？

アキコ ご実家に？

リエコ ええ。

アキコ そう。お母様は、お元気？

リエコ おかげさまで。

アキコ ……。

リエコ あ、べつに、そういう意味じゃなくて……。ホントはもっと早くにお伺いするつもりだったんですけど。ちゃんとお礼を言わなくちゃって思ってた。父のこと、すっかりお世話おかけしちゃって。

アキコ あ、いえいえ……。

リエコ それに、今後のことも、はっきりさせておきたいし。

アキコ 今後のこと？

リエコ あとになって、いろいろ揉めたりするの、イヤですし。

アキコ いろいろって？

リエコ お葬式のことだとか、お墓のことだとか、いろいろありますでしょう？  
アキコ ……。

ミドリ、お盆に人数分のカルピスを載せて戻ってくる。



ミドリ どうぞ。  
リエコ どうも。

ミドリ、無言でアキコに目をやる。

アキコ (ミドリに) リエコさんよ。

ミドリ え？

アキコ お父さんの……娘さん。

ミドリ ……。(ああ。と、言葉には出さず。会釈)

リエコ 今朝、病院の廊下でお二人のことお見かけして、すぐにご挨拶をって思ったんですけど、なんか、込み入ったお話、されてたみたいだったから。

ミドリ ああ……。

アキコ けど、どうなんでしょう？

リエコ はい？

アキコ あの人……。

リエコ よしてください。「あの人」なんて。

アキコ ……。お父様、本人が、まだ、あれなのに、逝ったあとのこと、まわりが先走っている。するっていうのは……。

リエコ まわりがしないで、誰がしてくれるんです？

アキコ それは、そうですけど……。

リエコ　　そういうこと、ハッキリさせておきたいんです。たとえば分骨やなんかって、母がイヤがると思うんです。遺品の一つだつて、ここに残しておきたくない。

アキコ・ミドリ　　……。

リエコ　　長いことご厄介になっておいて、こういうこと言うの、あれなんですけど……。

アキコ　　そちらのいいようになさってください。

ミドリ　　ママ……。

アキコ　　お葬式のこと、お墓のこと、そちらのいいように……。ウチは構いませんから。

リエコ　　葬儀にも、出席して欲しくない。

アキコ　　……。はい……。

ミドリ、バンとテーブルを叩く。

ミドリ　　何なのよ?!　黙って聞いてりや、言いたい放題。言いたい、お父さんの方が勝手にこの家に転がり込んできたんじゃない。来てくれなんて、一言も頼んじやないわよ。それを、今さら、一方的に……。

リエコ　　ですから、そのことはさっき、お母様に、お礼申し上げました。

間。

そこへ、ヤグチが紙袋を下げ、満面の笑顔で飛び込んでくる。

ヤグチ そのこの寿司屋で、稲荷寿司がさあ……。

女一同 ……。(そちらに顔を向ける)

ヤグチ ……。どうも……。

女一同 ……。(会釈)

ヤグチ、気まずさに静かに後ずさり、去る。

リエコ ミドリさん、お腹おつききていらっしやいます？

ミドリ え？ ええ……。

リエコ 男の子？ 女の子？

ミドリ それは、まだ……。

リエコ 何ヶ月？

ミドリ ……今、五ヶ月ですけど。

リエコ きつと男の子ね。

ミドリ は？

リエコ そういう顔、してますもん。

ミドリ ……。

ミドリ、立ち上がる。

アキコ ミドリ……？

ミドリ ヤグチくんにも、カルピス。

ミドリ、去る。

アキコ ……。氷。溶けないうち、どうぞ。

リエコ ……。

アキコ、扇風機をつける。

リエコ、バッグから白い封筒を取り出す。

大粒の雨が降り出す。

リエコ これ。少ないですが。（と座卓の上に置き）

アキコ え？

リエコ 今までの入院費用とか……父のことで、かかったお金です。これっぽっちじゃ、ぜんぜん足りないと思いますけど。

アキコ ……。

リエコ ですから、今後、もう父のところへは……。  
アキコ ……そうですか。

雨の音。

リエコ、腕時計に目をやり、立ち上がる。

リエコ じゃ、あたし、これで。

アキコ 傘は？

リエコ え？

アキコ 傘、お持ち？

リエコ (窓の外に目をやり) ……。

アキコ やむまで、ここでお待ちになったら？

リエコ いえ。これからまだ行かなきゃならないところがありますから。

アキコ そう。じゃあ、玄関の傘、お持ちになつて。

リエコ ……。

リエコ、会釈して出て行く。

間。

アキコ、封筒を手取る。

それを電話台の引き出しに入れる。  
窓の外の雨に目をやる。  
雨の音、高鳴り、溶暗。

同日、同場所。午後。

ヤグチ、ソファで雑誌を捲っている。ミドリの置いていった妊婦用の雑誌である。やがてシゲル、お盆の上にペットボトルのウーロン茶二本と、同じ二つの包みを載せて現れる。

シゲル 稲荷寿司だらけじゃんか！

ヤグチ (顔を上げ) ん？

シゲル 少しはヒネれよなあ。

やや間。

ヤグチ なあ。

シゲル あ？

ヤグチ どうなの、こういうの。弟として。

シゲル え？

ヤグチ いや、俺、女のきょうだい、いないからさ。

シゲル 何が？

ヤグチ 「特集・妊娠中の夜の生活」。

シゲル ……。

ヤグチ 実の姉がこういうの読んで、実践してるとこ想像すると……。

シゲル 想像しねえし。

ヤグチ ほれ、すごいよ。見てみなよ。

シゲル いいよ、バカ。つか、お前、責任取って半分食えよな。

ヤグチ 食うよ。

シゲル、ヤグチに包みを一つ渡す。

ヤグチ、包みを開ける。

シゲル、自分の包みを開けようとするが、紐がなかなかほどけない。

ヤグチ お。（油揚げが）裏返しだ。

シゲル （紐の結び目と格闘し）……。

やや間。

ヤグチ （食べながら）あそこって、前、なんだったっけ？

シゲル あ？



ヤグチ 寿司屋。寿司屋になる前。

シゲル ああ。さあな。

ヤグチ 不動産屋のくせに。

シゲル ウチの物件じゃねえもん。

ヤグチ あー、思い出せそうで、思い出せない。

シゲル なんて？

ヤグチ なん？

シゲル なんか、あんの？

ヤグチ 何が？

シゲル だから、寿司屋になる前。

ヤグチ ないよ。なんで？

シゲル ……。

やや間。

ヤグチ さっきの人、誰？

シゲル え？

ヤグチ さっき、ここいた人。ちよつときれいな人だったよね。

シゲル ああ……そうか？

ヤグチ またまた、すつとぼけて。

シゲル 何が？

ヤグチ モロ、おまえ好みじゃん。

シゲル んなことねえよ。

ヤグチ ある、ある。全部同じ系統だもん。バスケット部のヨウコだろ、C組のクラタさん、生物部のサトミ、あと、なんてったつけ、放送部の……。

シゲル 箸で指すなって！

ヤグチ ……。

シゲル ーああつ、もう、イライラする！

シゲル、引き出しからハサミを取りだし、紐を切る。

ヤグチ 最初からそうしろよ。

シゲル ……。なあ、ヤグチ。

ヤグチ ーん？

シゲル たとえば、おまえが死んだとするじゃん。

ヤグチ え、なんで？！

シゲル なんでもいいよ。事故でも病気で。

ヤグチ ……。

シゲル で、葬式やら何やら、俺が、おまえの奥さんのこと、手伝うことになると思うんだ。  
ヤグチ ああ、そりゃ、どうも。

シゲル そのうち、俺とおまえの奥さんが、くつつくとするじゃん？

ヤグチ え、おまえ、うちのカミさんのこと、そういう目で見てんの？

シゲル いいから聞けって。

ヤグチ 聞いてるよ。

シゲル やっぱ、恨むかな？

ヤグチ 俺が？

シゲル え？

ヤグチ おまえのことを？

シゲル (箸で) 指すなって！

ヤグチ ……。

シゲル おまえの奥さんのことを、俺の娘が。

ヤグチ おまえ、いつのまに娘がいたんだよ？！

シゲル だから、たとえばの話だって。

ヤグチ たとえにしたって、初耳だからさ。

シゲル こないだ、ウチの店、来てさ。あの人。

ヤグチ あの人？

シゲル だから、さっき、ここにいた人。

ヤグチ ああ……。

シゲル 小さい娘連れて……。

ヤグチ え？ 子持ちなの？

シゲル うん。幼稚園。

ヤグチ マジで？ そうは見えないね。……どういう知り合い？

シゲル 賃貸マンション探してて。

ヤグチ へえ。

シゲル 契約の一步手前までいったんだけど……連帯保証人がさ……。

ヤグチ 何？

シゲル 叔父さんだっていうんだよ。

ヤグチ ダメなの？ 連帯保証人が叔父さんじゃ。

シゲル や、そのことじたいは、べつに、よくあることなんだけど。

ヤグチ じゃ、何だよ？

シゲル ん……。電話すんだろ？

ヤグチ 電話？

シゲル 保証人のとこ。電話することになってんの。確認のために。

ヤグチ ああ。

シゲル したら、叔父さんじゃないんだよ。

ヤグチ 叔母さんだったか！

シゲル え？

ヤグチ、自分で言った冗談に大ウケしている。

シゲル ……。くっだらね……。

ヤグチ あー、腹いてえ。

シゲル ぜんぜん面白くないから。

ヤグチ で？ ほんとは、何だったんだよ？

シゲル もういいよ。

ヤグチ え？

シゲル 話す気、失せた。

ヤグチ 怒るなよお、シゲルちゃん。

シゲル ちゃん、て言うな！

玄関でチャイムが鳴る。

シゲル はい。

シゲル、去る。

ヤグチ、稲荷寿司を食べながら、さっきの雑誌を読んでいる。  
やがてシゲル、ポストンバッグを手に戻ってくる。

シゲル 散らかしてるけど……。

続いてサキ、現れる。

シゲル (バッグを置き) あ、泥、跳ねてる。

サキ え？ ああ……。

シゲル 今、タオル……。

シゲル、再び去る。

ヤグチ どうも。(なんとなく、会釈)

サキ どうも……。 (会釈を返す)

間。

ヤグチ、サキを凝視する。

サキ ……。

やがてシゲル、タオルを手に戻ってくる。

シゲル これ。

サキ ありがとう。

シゲル 電話してくれれば、駅まで迎えに行ったのに。

サキ うん……。

サキ、スカートをつまみ上げ、泥の跳ねた脛ら脛をタオルで拭く。

シゲル・ヤグチ (それを見つめ) ……。

サキ、ふいに顔を上げる。

シゲル、視線をそらす。

ヤグチ、再び雑誌に目を落とす。

サキ 叔母さんたちは？

シゲル ん？ ああ。今、メシ行ってる。そろそろ帰ってくるんじゃないかな。

サキ そう。

シゲル サキちゃんは？ 食った？ 昼飯。

サキ うん。途中で、軽く。

シゲル そう。

ヤグチ あ、食います？

サキ え？

ヤグチ 稲荷寿司。

シゲル 食ってきたって言ってんじゃん！

ヤグチ 稲荷寿司はベツバラだろ？

シゲル 何だそれ。

サキ シゲルちゃん、これ。（タオルを）どこに……？

シゲル あ、いいよいいよ。（と受け取る）サキちゃん、座って。

サキ うん。

シゲル なんか飲む？

サキ 大丈夫。

シゲル カルピス、あるけど。

サキ ああ、じゃあ。

シゲル、去る。



ヤグチ (雑誌を閉じ) やっぱ、そうだ。

サキ え？

ヤグチ 前に一度、お目にかかってますよね？

サキ あたしですか？

ヤグチ ええ。

サキ いつですか？

ヤグチ 昔。まだ、この辺りに、いつとも高い建物なんかなかった頃。こここの二階の物干し台で、

一緒に星、見たでしょう？

サキ はあ……。

ヤグチ 覚えてませんか？

サキ ちよつと……。

シゲル、カルピスを入れたグラスを手に戻ってくる。

サキ あ、ありがとう。

ヤグチ (シゲルに) 人違いってこと、ないよなあ？

シゲル え？

ヤグチ 一緒に星、見ただろ？

シゲル え、サキちゃん？

ヤグチ うん。

シゲル いつ？

ヤグチ 昔、俺らが高校生のとき。(サキに)冬ですよ。こいつの望遠鏡で、オリオン座の馬頭星雲、

見せてあげたら、あなた、「何も見えない」って。そしたら、こいつ、いきなり怒りだして、「見つめるから見えないんだ！」って。あれから俺、「馬頭星雲」て聞くとたびに、あなたがこいつに罵倒されてる姿が思い浮かんで……。

シゲル おまえ、話、つくってんだろ？

ヤグチ え？

シゲル だいたい望遠鏡で馬頭星雲は見えねえよ。

ヤグチ ン。まあ、そこは、ちよつとつくったけどね。(サキに)でも、ほんと、一度、会ってるんですよ。

サキ そうですか。

ヤグチ 大学生？

サキ ええ。

ヤグチ どちらの？

サキ 東京です。

ヤグチ 東京！ すごいっすね。

サキ べつに、すごくは……。

ヤグチ じゃあ、銀座とか、渋谷とか……北千住とか……。  
サキ 北千住？  
ヤグチ あれ？ 北千住って東京じゃありませんでした？  
サキ いや、ま、東京ですけど……。  
ヤグチ 親戚がいるんですよ。北千住。  
サキ ああ……。  
ヤグチ 今は、夏休みで？  
サキ ……ええ、まあ……。  
ヤグチ いいなあ、学生さんは。  
シゲル サキちゃん、飲みなよ。  
サキ うん。  
ヤグチ そつかそつかあ。じゃあ、あれだ。毎日、サークルやら、何やら。  
サキ ……。(飲む)  
ヤグチ 彼氏とか、いるの？  
サキ え？  
ヤグチ いるな、その顔は！  
サキ ……。  
ヤグチ 彼氏と湘南の海で……。  
シゲル うるせえな！

ヤグチ え？

シゲル おまえ、何なんだよ、さつきから！

ヤグチ 何だよ？

シゲル 何が湘南の海だよ。湘南は、神奈川だろ。

ヤグチ 神奈川は、東京だろ？

シゲル わけわかんねえこと言ってねえで、黙って稲荷寿司、食えよ！

ヤグチ 食ってるよ。

シゲル たく……。

サキ、雑誌に手を伸ばす。

シゲル あ、「特集ページ」は！

サキ え？

シゲル いや……。しかし帰ってこねえな、あの二人。どこまで行ってんだか。

サキ ミドリちゃん、そろそろだっけ？

シゲル え？

サキ 赤ちゃん。

シゲル ああ。五ヶ月って言ってたけど。

サキ 男の子？ 女の子？

シゲル まだ、わかんないんじゃない？

ヤグチ わかるだろう？ 五ヶ月なら。

シゲル そうなの？

ヤグチ そうだよ。

シゲル そうなんだ。でも、まあ、わかったところで選べるわけでもないし……。

サキ あたし、女の子がいいな。

シゲル え、なんで？

サキ、雑誌に目を落とす。  
間。

ヤグチ だってお前、そりやそうだよ。

シゲル だから、どうしてだよ？

ヤグチ たとえば、誕生日なんかにプレゼント買ってやるだろ。俺の場合、たいてい社販の洋服と

かだけどき。子供服売り場でも、女の子のコルナーはスカートだったり、ひらひらがついたブラウスだったり、選んでも楽しいんだけど、男の服って、つまんねえの。

シゲル そんな理由？

ヤグチ え？

サキ フフ……。 (笑う)

ヤグチ・シゲル ……ハハ……。 (笑う)

ヤグチ、サキのカルピスを飲む。

シゲル ……。あ！ それ、サキちゃんの……。

ヤグチ え？ あ……。ごめんなさい。

サキ あ、いえ……。

シゲル 何やってんだよ！ たく……。 (グラスを取る)

サキ あ、いいよ。

シゲル でも……。

サキ ほんとに。

シゲル ……そう？ (ヤグチに) バカ。

ヤグチ、立ち上がる。

シゲル 何？

ヤグチ 便所。

ヤグチ、去る。

シゲル　へんなやつだろ？  
サキ　……うん。

やや間。  
シゲル、稲荷寿司を食う。

シゲル　（稲荷寿司を）食う？

サキ　ううん。

シゲル　だよね……。何、食ったの？

サキ　え？

シゲル　軽くって。

サキ　ああ。お蕎麦。

シゲル　蕎麦……。

サキ　冷やしスタミナ。

シゲル　え、駅前の蕎麦屋？

サキ　うん。

シゲル　やってた？！

サキ　やってたよ。

シゲル ……そう……。

サキ なんて？

シゲル あ、や……。けど、何年ぶりだろ。サキちゃんと、こうして、ジカに話すの。

サキ ジカ？

シゲル だから、こうやって、面と向かって……。

サキ ミドリちゃんの結婚式以来じゃない？ だから、十年……？

シゲル え、そんなになる？

サキ なるよ。

シゲル そっかあ……。

やや間。

サキ 聞かないの？

シゲル え？

サキ 東京で、何があったか。

シゲル ああ……。聞いたよ。だいたい。姉さんから。

サキ そう……。

シゲル ……。

サキ 今日、森さんは？



シゲル ん？ ああ。入院しちやっただよ。

サキ 入院？

シゲル うん。

サキ 怪我？ 病気？

シゲル 病気。

サキ どこが悪いの？

シゲル いろいろだよ。

サキ いろいろ？

シゲル いろいろ、あんだよ。年取ると。

サキ そうなんだ……。

シゲル ……。(稲荷寿司を食う)

ミドリ (声) ただいまあ。

シゲル あ、帰ってきた。

ミドリ、現れる。

ミドリ あら、サキちゃん！

サキ こんにちは。

ミドリ 久しぶり。ちよつと痩せた？

サキ そんなことないよ。

ミドリ そう？

サキ 体重、変わんないもん。

シゲル あか抜けたんだよ。

ミドリ そっか。都会の絵の具に染まりおつて。

サキ 何、それ？

ミドリ ハハハ……。

アキコ、現れる。

アキコ あら。サキちゃん、来てたの。

サキ ! (振り帰り) 叔母さん、おじやましてます。あの、このたびは……。

アキコ いいわよ。話はセツコから聞いてるから。しばらく、ゆっくりしていきなさい。

サキ はい……。すいません……。

アキコ、去る。

サキ ……。

ミドリ ねえ。なんか臭くない？

シゲル え？

ミドリ 焦げ臭い。

シゲル そう？

ミドリ (サキに) ねえ？

サキ ああ、そういえば……。

シゲル マジで？

ミドリ お勝手？！

シゲル あ、いいよ。俺、見てくる。

シゲル、行きかけたとき、ヤグチ、慌てふためき戻ってくる。

ヤグチ ちよつと、ちよつと、大変、大変！

シゲル どうしたの？

ヤグチ 火事だよ、火事。

シゲル え？

ヤグチ 向かいのマンション！

シゲル ええっ！

ヤグチ、再び去る。

続いてシゲル、去る。

ミドリ・サキ ……。 (顔を見合わせる)

消防車のサイレンが近づく。

ミドリ、窓の前に立つ。

溶暗。

同日、夜。

すでに雨はあがっている。

作業服を着た電気屋の男がエアコンを見上げている。

ソファでマサヤ、妊婦用の雑誌を広げている。

部屋の隅で、扇風機はうつむいて止まっている。

電気屋 ミドリ、サンの……。

マサヤ (顔を上げ) え、何？

電気屋 はい？

マサヤ いや、今、ミドリがどうか……。

電気屋 点滅の回数ですよ。緑、三回に、赤、二回。

マサヤ え？

電気屋 点滅のパターンで、わかるようになってんですよ。故障の原因。

マサヤ ああ……。それで？

電気屋 はい？

マサヤ 故障の原因は？

電気屋 ああ。故障……してませんね。

マサヤ してない？

電気屋 正常です。

マサヤ 正常！？

電気屋 はい。

マサヤ いやいや。だって、今日一日、ウンともスンともいわなかったんだよ？

電気屋 今日、暑かったから。

マサヤ え？

電気屋 電気系統の濡れたところ、乾いて、ひとりで直っちゃったんですね。

マサヤ 直っちゃった？

電気屋 ちゃった、って言い方は、あれですけど。

マサヤ そういもんなの？

電気屋 そういもん？

マサヤ 乾いて、ひとりで直っちゃったり、するもんなんですか？

電気屋 まあ、ときどきあるんですよ、こういうこと。

マサヤ そうなの……。

電気屋 はい。

電気屋、エアコンのふたを閉じる。

電気屋（伝票を出し）異常なし、と。じゃ、ここ、サイン、いただけます？  
マサヤん。……あ。俺のサインでいいのかな？

電気屋 え？

マサヤ いや、ま、いっか。

マサヤ、伝票にサインする。

電気屋 しかしたいへんでしたね。

マサヤ え？

電気屋 昼間、向かいのマンションで、小火<sup>ぼや</sup>、出たでしょう？

マサヤ ああ……。みたいね。

電気屋 僕、ちようど、見てたんですよ。移動の車の中で。

マサヤ そう……。

電気屋 すごかったなあ。風にバンバン煽られて。……大丈夫でした？

マサヤ 何が？

電気屋 煙、すごかったでしょう？

マサヤ 俺、ちようど、出かけてたから。

電気屋 あ、そうなんですか。

マサヤ でも、ま、大丈夫だったんじゃないの？ 現にこうして大丈夫なんだから。百聞は一見に

しかなだよ。

電気屋 「百聞は一見にしかず」!

マサヤ え?

電気屋 そつか、そつか。(メモ帳を取り出し、記入する)

マサヤ ……。

電気屋 だけど、ヤジウマって、なんでみんな薄笑いなんですかね?

マサヤ 薄笑い?

電気屋 薄笑い浮かべてんですよ。みんな。火事、眺めながら。

マサヤ へえ。

電気屋 他人事ひとごとみたいに。

マサヤ 他人事ですよ。

電気屋 え?

マサヤ 対岸の火事っていうじゃない。

電気屋 「対岸の火事」! ああ、なるほどお。対岸の火事、と……。

(メモする)

マサヤ ……そういうの好きだね。

電気屋 でも、あの中に紛れてたんですよ。犯人の男。

マサヤ え?

電気屋 犯人の男ですよ。放火の犯人。

マサヤ ああ。でも、なんで……?



電気屋だって、言うじゃないですか。現場に帰るつて。

マサヤ いや、あれつて、放火だったの？

電気屋 違うんですか？

マサヤ 知らないから聞くんだけど。

電気屋 放火でもなきや、普通、火なんて出ませんよ。完成間際のマンションから。

マサヤ ああ……。

電気屋 ここんとこの連続放火事件と同一犯の犯行じゃないですか？ あえて明るい、ひと目の多いときを狙うのが特徴なんですよ。ラジオのニュースで言っていました。

マサヤ そう。

電気屋 いましたね。あの薄笑いの中に。確実に。ひよっとしたら、僕、目撃してるのかもしれないな。いな。

マサヤ ……。だけど、どうして「男」だつて？

電気屋 はい？

マサヤ 犯人、「女」かもしれないでしょ？

電気屋 そんなの、逮捕されてみなきや、わかんないじゃないですか。

マサヤ うん、だからさ……。

電気屋 何か証拠でもあるんですか？

マサヤ え？

電気屋 犯人、「男」だつていう。

マサヤ いや、自分で言ったんじゃない。「犯人の男」って。  
電気屋 僕が？

マサヤ うん。

電気屋 言いました？

マサヤ 言ったよ。二回も言った。

電気屋 ほんとですかあ？

マサヤ ……。ま、いいけど。

ヤグチ、首から一眼レフのカメラを下げ、現れる。

ヤグチ あれえ……？

マサヤ ……どしたの？

ヤグチ レンズのあれ、落ちてませんでした？

マサヤ あれ？

ヤグチ ふた。

マサヤ ふた？

ヤグチ ええ。

マサヤ いや、見てないけど。

ヤグチ おかしいなあ。

ヤグチ、去る。

電気屋、立ち上がる。リモコンを手に取り、

電気屋 ……あ。つけときます？

マサヤ え？

電気屋 エアコン。

マサヤ ああ。すいませんね、せつかく来てもらったのに。

電気屋 いえ。仕事ですから。働かざる者食うべからず、ですよ。

マサヤ はあ。

電気屋 じゃ、税込みで三千九十円になります。

マサヤ え？

電気屋 三千九十円。

マサヤ お金、取るの？

電気屋 はい。

マサヤ だって、ひとりでに直ったんだよね？

電気屋 出張だけ、いたかくことになってますんで。

マサヤ ああ……出張費……。そりやそうだよね……。

ドリ！

(部屋の外に声を張り) おい、ミドリ！ ミ

ミドリ、不機嫌そうに現れる。

ミドリ なに？

マサヤ 支払い。

電気屋 出張費だけいただくことになってるんで。

ミドリ ……。

ミドリ、財布を取りに一旦去る。すぐに戻り、

ミドリ おいくらですか？

電気屋 税込みで三千九十円です。

マサヤ ほら見ろ。

ミドリ え？

マサヤ 家の中でさえこうなんだ。男が一旦、おもてに出たら、どんな不測の事態が待ち受けてるかもわからないだろ？

ミドリ だから何？

マサヤ だから、いざつてとき、大の男が財布の一つも持っていかなかったら恥かくだろ？

ミドリ かきなさい。

マサヤ……。

ヤグチ、戻ってくる。

ミドリ (財布から一万円札を抜き出し、電気屋に) じゃ、これで。

電気屋 あ……。こまかいの、ないですかね？ ちよっと、つり銭、切らしちゃって……。。

ミドリ……。ママ。ママあ！

ヤグチ あの、僕、ありますけど。

ミドリ え？

ヤグチ こまかいの。

ミドリ ああ……。じゃ、ごめん。ちよっとの間、お借りしていい？

ヤグチ どうぞどうぞ。えっと……。

電気屋 三千九十円です。

マサヤ 税込みだから。

ヤグチ 三千九十円……。じゃ、これ。

電気屋 はい。ちようどいただきます。

マサヤが雑誌を読んでいる。

ミドリ、それを取り上げ、去る。

電気屋 すいません。ちょっと、お手洗いを……。

マサヤ どうぞ。(去る)

電気屋 えっと……。

ヤグチ そこ、突き当たりを右。

電気屋 あ、どうも。

電気屋、去る。

マサヤ ありや、やっぱ、男の子だなあ。

ヤグチ え？

マサヤ 男の子だと、キツくなるっていうじゃない。昔から。そういう顔、してると思わない？

ヤグチ ああ、どうですかね……。

マサヤ 双子って顔では、ないよね？

ヤグチ え、どういんですか？ 双子って顔って。

マサヤ どういうんだろ。

ヤグチ ……。

マサヤ いいカメラだね。

ヤグチ え？ ああ、いやいや。買い替え損ねて、今どきアナログで。

マサヤ、ピースサイン。

ヤグチや。フィルム、入ってませんよ。  
マサヤ ああ、なんだ、そう。

マサヤ、新聞紙を片付ける。

マサヤ なんか、あんの？

ヤグチ え？

マサヤ 今日。

ヤグチ ああ。ペルセウス座流星群の極大日なんですよ。

マサヤ へるせ……？

ヤグチ ペルセウス座流星群。

マサヤ 珍しいデキゴトなんだ？ 記念写真撮っちゃうような。

ヤグチ や、記念写真というか……。流星群じたいは、年にいくつもあるんですよ。（片付けを手伝う）

マサヤ そうなの。

ヤグチ なかでも、夏に一番多く流れ星の確認できるのが、ペルセウス座流星群なんです。

マサヤへえ。(すでに興味がない)

ヤグチ スイフト・タットル彗星が母彗星で……、あ、母彗星ってわかります？(カメラを置き)流  
星群のモトになる物質を軌道上に残す彗星のことなんですけど……。

マサヤ 俺、星に願いたい事とかしないタイプの男だからさ。  
ヤグチ え？ はあ……。

シゲル、現れる。

シゲル ただいま。

ヤグチ あ、おかえり。

マサヤ おかえり。

シゲル あ。お義兄さん、帰ってたんですか。

マサヤ うん。

シゲル (ヤグチに) これで大丈夫だろ？

ヤグチ おう。サンキュ。

シゲル いい加減、デジカメ買えよ。今どき、フィルムなんてコンビニにもなくて、駅前カメラ  
屋まで行っちゃったよ。

ヤグチ 壊れたら買い替えようと思ってるんだけど、壊れねえんだもん。  
マサヤ 壊してやろうか？



ヤグチ やめてくださいよ……。で、どうだった？

シゲル ん？

ヤグチ 向かいのマンション。

シゲル ああ。建物の裏手に積んどいた廃材にやられたみたいだな。外壁がススケただけで、大事には至らなかつたけど。

ヤグチ やっぱ、反対派のイヤガラセかな？

シゲル いや、まさか……。 (マサヤに) いくらなんでも、それはないですよね？

マサヤ ん？ んん……。あ！

シゲル ……どうしたんです？

マサヤ 流れ星。

シゲル え？

マサヤ 今、デカイの、流れたよ。

ヤグチ どこですか？

マサヤ そこ。

シゲル ……ああ、ほんとだ。痕が残ってる。

マサヤ え、コン？

ヤグチ 流星痕ですよ。ほら、あそこに、筋状の煙みたいなの、残ってるでしょう。

マサヤ (目を細め) どこ？

ヤグチ あそこですよ。

マサヤ え？

ヤグチ あそこ。

マサヤ あ？

ヤグチ もう、わからない人だなあ！

そこへ、電気屋、戻ってくる。

シゲル あ。電気屋さん。待ってたんですよ。

電気屋 どうも。

シゲル 夕方方っていうから、ずっと……。

電気屋 すいません、すっかり遅くなっちゃいまして。じゃ、僕は、今日はこれで。

シゲル は？

マサヤ ミドリ！ ミドリい！

一同 ？

ミドリ、戻って来る。さっきより一層不機嫌に、

ミドリ なに！

マサヤ (顎をしゃくり) 電気屋さん。

ミドリ (電気屋に) はい？

電気屋 え？ あ、いえ、あの……僕、今日は、これで……。

ミドリ ええ。

一同 ……。 (電気屋に注目)

間。

電気屋 ……すみません。

電気屋、なぜか謝り、工具箱を持って下手奥に去る。

ミドリ ……。 あ、ヤグチくん、晩ごはん一緒に食べるでしょ？

ヤグチ あ、いやいや、そこらでテキトーに食べてきますから。

ミドリ (冗談めかして) 大丈夫。それでさっきの、チャラにしようなんて思っていないから。

ヤグチ さっきの？

マサヤ 電気屋のお金でしょ。立て替えた三千九十円、晩飯で、チャラ。

ヤグチ ああ、(悲しげに) チャラ、ですか……。

ミドリ そういう心配はいらない、っていう話をしたの。(マサヤに) あんた、横から余計な口挟まないでよ。話がややこしくなるでしょ！

マサヤ おまえがややこしくしてるんだらう？ そうならそうとストレートに言えばいいじゃないか！

ミドリ ユーモアを交えて言ったんじゃない。

マサヤ ぜんっぜん面白くない。

ミドリ (胸に大きく息を吸い込み) ……フン！

ミドリ、去る。

ヤグチ ……なんか、ボクのせいで……。

マサヤ いいよいいよ。ドンマイ、ドンマイ。

ヤグチ ……。

シゲル (マサヤに) で、どこ行ってたんですか？

マサヤ さん？

シゲル また、パチンコですか？

マサヤ よくわかったね。

シゲル 電話で、軍艦マーチ、聞こえましたよ。

マサヤ ああ、まあ、スロの方だけだね。

シゲル スロ？

マサヤ パチスロ。

シゲル お金、持ってないはずでしょう？

マサヤ 今、カードだもん。

シゲル ……。

マサヤ 今晚、カレーだな。

シゲル え？

マサヤ 玉葱の匂い。

シゲル ああ。

マサヤ 働かざる者食うべからず。か。

マサヤ、新聞紙を一枚手に取る。

マサヤ どれどれ。

シゲル ……何です？

マサヤ 求人情報。

シゲル ああ。何か、いいの、ありますか？

マサヤ まあ、こんな景気だから、なかなかねえ。

シゲル これなんか、いいんじゃないですか？

マサヤ 年齢が。

シゲル ああ……。じゃ、これは？

マサヤ 通勤時間が。  
シゲル そういうこと言ってるから、見つからないんじゃないですか。

間。

マサヤ 朝のお説教おばさん、て知ってる？

シゲル また、わけのわかんないこと……。

ヤグチ あ、知ってます、知ってます。

シゲル え？

マサヤ 知ってる？

ヤグチ 僕、昔一度、餌食になったこと、ありますよ。

マサヤ ホントに？

シゲル 何、それ？

ヤグチ 朝の上りの急行電車、決まって前から四両目に乗ってくるヘンなおばさんがいてさ。やたら独善的な説教すんの。

マサヤ 目、合わせたらアウトなんだよ。

ヤグチ そうそう！ 目、合わせたらアウトなんですよね。

シゲル へえ……。

ヤグチ でも、最近、見かけなくなったなあ。生きてんのかなあ？ 説教おばさん。

マサヤ、煙草をくわえる。ライターを探すが、見つからない。

マサヤ あれ……？

シゲル どしたんですか？

マサヤ いや、ライター……。

シゲル パチンコ屋に忘れてきたんじゃないんですか？

マサヤ ……。

ヤグチ あ、ありますよ。

マサヤ え？

ヤグチ 火。

マサヤ ああ……、いや。

ヤグチ はあ。

間。

シゲル 二階<sup>うえ</sup>、行ってるか。

ヤグチ あ、うん。

シゲル、ヤグチ、去る。  
ソファにカメラが置き忘れられた。  
マサヤ、カメラを手に取り、ファインダーを覗く。  
窓辺に立ち、ファインダー越しに外を眺める。

マサヤ……。

と、ミドリが洗濯物を抱えて現れる。

マサヤ、ミドリに向けてシャツターを切る。

ミドリ (立ち止まり) なによ……？

マサヤ 記念写真。

ミドリ 何の記念よ？

マサヤ あれ？ 鼻の下、どうしたの？

ミドリ え？ (鼻の下に触る)

マサヤ カトちゃん、ぺ。(と、シャツターを切る)

ミドリ ……。バカじゃないの？

マサヤ ファイルム、入ってないよ。



ミドリ、洗濯物をたたむ。

マサヤ イヌイさんちの話、聞いた？

ミドリ 何？

マサヤ イヌイさん。団地の自治会の。双子だったって。

ミドリ ああ。

マサヤ ウチも双子だったりしたら、どうするよ？

ミドリ どうするって？

マサヤ 大変だぞお。体力的にも経済的にも。

ミドリ ……なんでそんなヒトゴトみたいな言い方するの？

マサヤ ……。なんかここ来るたんび、いっつもカレーだな。

ミドリ 文句あるなら食べなくていいわよ。

マサヤ 文句言ってるわけじゃないけど……。でも、普通、ジャガイモって炒めないよね。でろでろになるし。

ミドリ 炒めるでしょ。でろでろがいいんじゃない。

マサヤ そ？ ここんちだけじゃない？ あっ！「内田家」だけに「ウチだけ」流、なんつって、ハ

ハハ……。

ミドリ ……。

マサヤ わかりにくかった？ 内田家と、ウチだけ……。

ミドリ (遮って) で、どうするつもりナンデスカ？

マサヤ メシ？ 食うよ。

ミドリ ……。その、あんたが食うメシは、どっからお金が出てると思ってるんデスカ？

マサヤ お前、「メシ」とか「食う」とか、そういう男言葉を……。

ミドリ あんた今、自分のおかれてる状況わかってんの？！ 前の会社辞めてもう半年になるのよ。

マサヤ まあたその話？

ミドリ まあた、じゃないでしょう？

マサヤ だから、こうして求人情報をだなあ……。

ミドリ こんなこと、弟にまで心配させないでよ。情けない。

マサヤ え？

ミドリ さつきシゲルに言われてたでしょう？

マサヤ なんだ、聞いてたの。

ミドリ ほんとに双子だったりしたら、どうするつもり？

マサヤ だから、それをさつき聞いたんじゃないの？

ミドリ ……。(溜息)

ミドリ、洗濯物をたたむ。

と、ミドリの指先に何かが触れた。

ミドリ きゃあ！（と、洗濯物を放り投げる）

マサヤ え、何？

ミドリ そ、そ、それ……。 （と、指差す）  
マサヤ ？

マサヤ、洗濯物についた小さな茶色いものをつまむ。

マサヤ ああ……。

ミドリ な、なんなの？

マサヤ 蟬の幼虫……。 っっていうか、サナギ？

ミドリ 見せなくていい！

マサヤ ほら。

ミドリ 見せなくていいから、どっかやってよ！

マサヤ ああ。

ミドリ 早く！

マサヤ、去る。まもなく戻ってきて、

マサヤ 急にでかい声出して、赤ん坊がびっくりするだろ。(ミドリの腹に手で触れ)びっくりち  
ちやいまちたねえ……。

ミドリ ……。

マサヤ でも、どうする？

ミドリ え？

マサヤ お腹の赤ん坊が、でかい、あんなのだったら。

ミドリ ……！

マサヤ、両手の人差し指を鉤にして、くい、くい、と動かして見せた。

ミドリ ……ああああ……。 (と、泣く)

マサヤ じよ、冗談だよ。なにも、泣くこたないだろ。 ……あ。(カメラを手に取り)ほら。笑って。  
いえーい。って。

ミドリ よしてよ。こんな状況で。

マサヤ やれば楽しくなるんだから。

ミドリ 馬鹿。

マサヤ いえーい。

ミドリ ……。

マサヤ ほら。いえーい。

と、サキ、現れる。

サキ あの……。

マサヤ え？

サキ ミドリちゃん。台所で伯母さんが呼んでる。

ミドリ ……うん……。

ミドリ、洗濯物を持って去る。

サキ 何してるんですか？

マサヤ ん？ いや……。サキちゃん、撮ったげようか？

サキ 結構です。

マサヤ あ、そう……。

サキ ちよつと、電話、お借りしていいですか？

マサヤ ああ。いいよいいよ。って、俺がいうのも、ナンだけど。

サキ (苦笑) ……。

マサヤ ハハハ……。

サキ ……。

マサヤの存在が邪魔なのである。

マサヤ……フタ、どこやったのかなあ？

マサヤ、察して、去る。

サキ、それを見送り、電話する。

サキ  
……。

相手は、電話に出ない。

サキ、受話器を置く。

サキ  
(電話を見つめ)……。 (うつむく)

ヒグラシの声。  
溶暗。

日曜日。夕方。

電気屋が、リモコン片手にエアコンを見上げている。  
シゲルがソファでそれを見ている。

電気屋 ……ほんとだ。ダメですね。

シゲル でしょう？

電気屋 ほんとだったら、ランプが点滅するはずなんですよ。赤と緑の。それで故障の原因がわかるようになったら、ランプが点滅するんです。

シゲル ええ。

電気屋 おかしいな。……急に、ですか？

シゲル え？

電気屋 動かなくなったの。今日、急にですか？

シゲル ああ、ええ、急に。

電気屋 何か、しました？

シゲル 何か？

電気屋 また、スプレーしたり……。

シゲル いや、何も。

電気屋 ほんとですかあ？

シゲル どういう意味です！？

電気屋 いやいや。

シゲル ……。

電気屋 そうですかあ……。

電気屋、リモコンをエアコン本体に向ける。いろいろボタンを押してみるが、反応がない。

電気屋 こうなっちゃうと、僕の手には負えないんで、一度、会社の方に持ち帰らせてもらっていいですか？

シゲル 持ち帰る？

電気屋 型番、控えさせてもらって……。

シゲル ああ。持ち帰るって、そういうことね。

電気屋 あれ？ ボールペン、どこやったろ？

シゲル あ、ありますよ。

シゲル、引き出しを開け、ボールペンを取り出す。



シゲル どうぞ。

電気屋 あ、すみません。お借りします。

リエコ（声） ごめんください。

シゲル はい。ちよっと、失礼。

電気屋 はい。

シゲル、去る。

電気屋、手帳を取り出し、エアコンの型番を控える。

電気屋 ええっと、E Z K 3 0 5 6 ……。

やがてシゲル、戻ってくる。

シゲル 散らかしてますけど。

続いてリエコ、現れる。

電気屋、メモしている。

シゲル まだ、かかります？

電気屋 え？

電気屋、シゲルとリエコの顔を交互に見る。

電気屋 ……ああ。（手帳をしまい、ボールペンを胸に挿す。ニヤニヤしながら）じゃあ、僕、今日  
のところは、これで。

シゲル はい。

電気屋 故障の原因がわかり次第、電話しますので。

シゲル お願いします。

電気屋 あ、いけね。これ、ありがとうございます。（と、ボールペンを）

シゲル ああ。（受け取る）

電気屋 では。

電気屋、工具箱を手に、去る。

シゲル あ、どうぞ、座ってください。

リエコ （座らず）……。

シゲル （引き出しにボールペンをしまい）一度、直ったと思っただけですけど、また、ダメで……。

引き出しが少し開いている。

リエコ ……。

シゲル あ、何か、飲みます？ カルピス、あったかなあ？

リエコ 結構です。

シゲル や、でも、何か……。

リエコ ほんとに。

シゲル はあ。

リエコ 話って何ですか？

シゲル ……。座ってください。

リエコ ……。(座る)

シゲル 父さん……や、森さん、どうですか？

リエコ え？

シゲル 晩飯、食ってる頃かな？

リエコ さすがに、まだ……。

シゲル そっか。そりゃ、そうですね。ハハハ……。や、見舞いに行くと、メシの時間ばっか、気になっているから……。長いこと入院していると、あんな味気ない食事でも、それだけが楽しみになったりするんですね。

リエコ (少し笑い) みたいですな。

シゲル こないだ、お袋たちと、病院で（会ったんですか）？

リエコ ええ。

シゲル そうですか。

リエコ 今日も、ここ来る前に、お見舞いに行ってきたんです。

シゲル ええ。

リエコ そしたら、おかしなことを……。

シゲル おかしなこと？

リエコ ええ。

シゲル 何です？

リエコ テレビをむこうに向けてくれって。

シゲル え？

リエコ 覗かれてるって言うんです。むこうから、こっちを覗き見られてるって……。

シゲル ……覗かれてる？

リエコ はい。

シゲル テレビの中から、ってことですか？

リエコ ええ。

シゲル なんだ、それ？

リエコ もう、ダメなのかも知れない。

シゲル え？

リエコ あたしのことも、わかってなかったみたい。自分の娘だつて。  
シゲル ……。

廊下で、サキとアキコの談笑する声。  
サキ、スーパ―の袋を提げて現れる。

サキ ただいま。(リエコを認め) あ……。

シゲル ああ、おかえり。

サキ いらつしやいませ。

リエコ ……。(会釈)

続いて、アキコ、現れる。

アキコ あら。リエコさん……。

リエコ ……どうも。

アキコ どうなさったんです？ 今日……。

リエコ あ、いえ……。

シゲル 傘、返しに来てくれたんだよ。

アキコ ああ。いつでもよかったのに。

リエコ どうも、ありがとうございます。  
アキコ いいえ。(シゲルに) 麦茶でいい？  
シゲル や、俺は……。

アキコ、去る。

サキ ……ごゆつくり。(小さく会釈)

サキ、去る。

シゲル いとこです。東京の大学に通ってる。いろいろあって今、うちにいるんですけど……。  
リエコ そうですか。

シゲル たいへんみたい。親と、いろいろモメちゃって。ハハ……。

リエコ ……。(廊下に目をやる)

シゲル ……。覚えてます？ 一度、会ってるの。

リエコ え？ 彼女と？

シゲル いや、俺とリエコさん。ほら、昔、親父の葬式の時、一度ここで会ってるでしょう。二階で

絵本読んであげたら、リエコさん、俺の布団で寝てしまって……。

リエコ はあ……。

シゲル 覚えてないか。  
リエコ ごめんなさい。  
シゲル いや、いいんです。

やや間。

リエコ 星、好きなんですか？

シゲル はい？

リエコ 廊下に天体望遠鏡が……。

シゲル ああ、まあ。高校の時、天文部だったんです。

リエコ そうなんですか。

シゲル 毎年、この季節になると、校舎の屋上で流星観測したり……。

リエコ はあ。

シゲル あ、痕てわかります？

リエコ コン？

シゲル 流星痕。大きな流れ星が流れた後に、空に煙みたいなのが残ることがあって。見たこと、あります？

リエコ いえ。

シゲル 見るのに、ちょっとコツがいるんです。まっすぐ見つめちゃダメなんですよ。見つめると、

見えなくなる。ほんの少し、焦点ずらして、視界の隅つこの方で捕まえるんです。  
リエコ ……。

シゲル ……すいません。なんか、つまんないこと……。

リエコ いえ……。やだ、もうこんな時間。あたし、そろそろ……。

シゲル え、もう？ まだ、いいじゃないですか。

リエコ 帰って夕飯の支度しないと。

シゲル ……。

リエコ じゃあ。(立ち上がる)

シゲル どこへ帰るんです？

リエコ え？

シゲル 実家ですか？ それとも、旦那さんのところですか？

リエコ ……。

シゲル 座ってください。

リエコ ……。

シゲル 座ってください。

リエコ (座る)

シゲル こないだの、契約書……マンションの賃貸契約書。連帯保証人、「叔父」さんて話でしたけ

ど……嘘ですよ？

リエコ ……。



シゲル あの名前と電話番号、旦那さん、ですよ？

リエコ ……。

シゲル 知りませんでした？ 確認するの。確認することになってるんです。

リエコ ……。

シゲル まずいですよ。黙って、勝手にハンコついたりするの。いくら夫婦でも、「有印私文書偽造」になりますから。ま、気持ちは、わからなくはないですけど。切羽詰まって、他に選択肢が見えなくなっちゃうことって、ありますから……。

リエコ 主人に、言ったんですか？

シゲル え？

リエコ このこと、主人に……。

シゲル 言いませんよ。間違い電話のふりして、誤魔化しました。

リエコ ……。

シゲル でも、金輪際よしてください、こんなこと。担当者が僕だったから良かったようなもの……。

リエコ すいません。

シゲル いや、もう、謝らなくていいですけど。だけど、どうするんです？ このままいつまでも、実家でお兄さん夫婦と一緒に暮らすわけにはいかないでしょう？ クミちゃんだって、来年、幼稚園にあがるわけだし……。

リエコ !

シゲル それで、あんな馬鹿げたこと、したんでしょう？

リエコ そんなことまで調べあげるんですね？

シゲル え？

リエコ 娘の名前まで。

シゲル ……何言ってるんですか。契約書の「同居人」の欄に、そう書いてあったじゃないですか。

それともあれも嘘だったんですか？

リエコ ……そうでした。

シゲル ……。大家さんの方には、ひとまず「仮契約」ってことで話をしてあります。来週、保証会

社紹介しますから、できるだけ早いうちに事務所に来てください。書類つくって、審査の

結果が出るのが、そうだなあ……。

リエコ なかったことにできませんか？

シゲル はい？

リエコ あの契約、なかったことにできませんか？ 手付金は、お返し頂かなくて結構ですから。

シゲル ……イヤだ。

リエコ ……。

シゲル って言ったら、どうするんです？

リエコ え？

シゲル 今さら、なかったことになんかできない、って言ったら……。

リエコ ……。

シゲル ウソですよ。あなたを困らせるつもりはない。

リエコ (シゲルを凝視) もしかして、知ってて、わざと、あの部屋薦めたんですか？

シゲル はい？

リエコ あたしのこと。パパの娘だって、最初から知ってて……。

シゲル ……。

リエコ そうなんだ。

シゲル いや、途中で気づいたんです。

リエコ 望遠鏡で、覗き見でもするつもりだったんでしょ？

シゲル え？ や、何をバカな……。 (笑う)

リエコ ……最低。

リエコ、行こうとする。

シゲル、立ち上がる。

シゲル 待ってください。

シゲル、リエコの肩をつかむ。

リエコ 放して！

シゲル わかりました。契約書は、僕の方で破棄しておきますから……。  
リエコ どいて。

リエコ、行こうとする。

シゲル 誤解ですよ！（肩をつかむ）

リエコ やめて！

シゲル リエコさん。

リエコ 大きな声、出しますよ！

シゲル 違うんだ。僕は、ただ……。

リエコ、腕を振りほどく。その拍子に、床に尻餅をつく。

シゲル ……。

そのとき、サキ、お盆に一人分のお茶を載せて現れる。

リエコ ……。

リエコ、立ち上がる。

サキ 大丈夫ですか？

リエコ、サキに会釈して、去る。

サキ (テーブルにお盆を置き) どうしたの？

シゲル、椅子に座り、深く溜息をつく。

シゲル ……。俺、よく、わかんないや。

サキ え？

シゲル 自分が、何を、どうしたいんだか……。  
サキ ……。

シゲル、麦茶を飲み干す。

シゲル サキちゃんは、どうなの？  
サキ 何？

シゲル その後、彼と、連絡とりあったり、してないの？

サキ ……連絡、つかないんだ……。

シゲル いいの？ それで。

サキ いいも、何も……。しょうがないでしょう？

シゲル しょうがない？

サキ こうなるより、しょうがなかったんだよ。

シゲル 何だよ、それ。他人事みたいに！

サキ え？

シゲル ……いや。ごめん。

シゲル、去る。

サキ (うなだれ、顔を手で覆う) ……。

サキ、やがて立ち上がり、お盆にコップを載せ去ろうとする。  
と、立ち止まり、振り返る。

お盆を置き、電話をかけに行く。

サキ (受話器を耳に当て) ……あ、もしもし。

留守電だったらしい。  
溜息。受話器を置く。

と、引き出しが少し開いている。

サキ  
……。

引き出しを開け、中から白い封筒を取り出す。  
封筒の中を覗く。

サキ  
……。

と、電話が鳴る。

サキ ! (びくつとして後ずさる)

アキコの声 ちょっと、誰か、電話出てくれる？

サキ ……。

アキコの声 シゲル! いないの? ……サキちゃん!

サキ、ポケットに封筒を突っ込み、引き出しを閉める。  
そして、逃げ去る。  
やがて、アキコ、現れる。

アキコ はいはい……。 (電話に出て) はい。もしもし。……。あ、どうも、いつもお世話になって…  
…え？ (にわかにながら表情が曇り) ……はい……はい……。

蝉の声。  
溶暗。



翌週、昼。

ソファでミドリ、新聞を広げている。  
やがてアキコが男ものの衣服を入れたダンボール箱を抱え、現れる。

アキコ ほら、ミドリも手伝って。

ミドリ ……。やだ、これ、こないだ、マサヤが受けた会社じゃない！？ 負債、十億で倒産だったわ。ひゃあ。一寸先は闇ね。面接、落とされて正解だったわ。

アキコ ……。

ミドリ なーんちゃって。 …… 元気出してよ。

アキコ え？

ミドリ そりゃ、落ち込むなって方が、無理だけど……。

アキコ あたしは、元気よ。

ミドリ ……。

アキコ、衣服をたたむ。

ミドリ あ。ウチダケ流。

アキコ 何？

ミドリ そのたたみ方。

アキコ え？

ミドリ 袖んとこ、普通そういうふうにしないでしよう？

アキコ ……するでしょう？ 袖は、普通、こう。

ミドリ そ？

アキコ するわよ。

アキコ、たたんだ服をダンボール箱に入れる。

ミドリ ねえ、ママ。

アキコ くん？

ミドリ あたし、やっぱりこのままここに住んじやおうかなあ。

アキコ え？

ミドリ ママだつてその方がよくない？

アキコ なんでよ？

ミドリ だつて、これでシゲルがお嫁さんでももらつて、この家出てつたら、ママ一人になつちや

うでしよう？

アキコ 出てつちやうの？ シゲルは。

ミドリ わかんないけど。でも、今どき「長男」なんてアテになんないんだから。  
アキコ 今だつてあんたたち、しょっちゅうこうやって来てるじゃないの。  
ミドリ そりゃそうだけど……。

やや間。

アキコ じゃ、下宿屋でもやろうかしら。

ミドリ え？

アキコ 下宿屋。開業するのよ。ママ、一人になったら。

ミドリ まあた……。

アキコ、立ち上がる。引き出しを開け、ペンを取り出す。

ミドリ ……？

アキコ 白いのない？

ミドリ え？

アキコ 広告の裏、白いの。

ミドリ ああ……（探して）つるつるのしかないけど。

アキコ いいわよ、つるつるで。

ミドリ はい。

アキコ、受け取ったチラシの裏に、書く。

アキコ 貸間、あ、り、□。(見せて) どう？

ミドリ どうって……。

アキコ これ、おもての門のところに貼り紙して。

ミドリ そんなの誰も見ないわよ。

アキコ シゲルんとこで募集してもらったっていいし。

ミドリ 今どき「貸間」なんて借り手がないわよ。っていうか、できっこないじゃない、そんな思いつきで。

アキコ やってみなくちゃわからないでしょ？

ミドリ わかる！ そんな甘いもんじゃないんだから。

ジャージ姿のシゲル、現れる。

ミドリ あ、やっと起きた。

シゲル (だるそうに) ああ。来てたの……。 (棚の扉を開け) 母さん、バファリン、どこにあったっけ？

アキコ 茶筆筒の引き出しに入ってるでしょ？  
シゲル 茶筆筒……。

シゲル、去る。

アキコ あと、もう、なんか残ってなかったかしら？ あ、そうだ、傘……。  
ミドリ ああ、いいわよ、そんなの。テキトーで。  
アキコ でも……。

ミドリ リエコさんの言うこと、真に受けることないのよ。遺品なんて、こっちが、これで全部ですって言えば、それ以上、むこうが追及できるわけじゃないんだから。

アキコ そうだけど……。

ミドリ マサヤ、帰ってきたら、荷物、車で運ばせようか？

アキコ いいわよ。宅配便で送るから。

ミドリ ううん。あたし、一緒に行つて、リエコさんに、これ返してくる。

ミドリ、白い封筒をつまみ上げた。

ミドリ ママも一緒に行こうよ。  
アキコ え？

ミドリ お父さんのこと、二十年も世話してきたんだもん。お線香の一つくらい上げさせてもらっ  
たって罰は当たらないでしょう？

アキコ ……。

ミドリ ついでにセツコおばちゃんとか寄って、サキちゃんの様子、見てこよう。自己嫌悪で、ど  
ーんと落ち込んでやしないか。

アキコ ああ……。

ミドリ だけどサキちゃん、案外気が小さいのよね。あたしだったら、のこのこ自分からお金返し  
に来たりなんかしないけどな。そのまま逃げて、逃げまくって、最後まで逃げ切ってみせ  
るのに……。

アキコ フフ……。

ミドリ ……なあに？ その笑いは。

アキコ ミドリは昔っから口ばっかり。

ミドリ ……。

シゲル、戻ってくる。

ミドリ あ、シゲルちゃん。

シゲル (言い返す気力もなく) ……ん？

ミドリ これ。ヤグチくんが渡してくれって。

シゲル 何？  
ミドリ 写真。

ミドリ、シゲルに封筒を渡す。  
開封すると、数枚の写真が入っている。

シゲル ああ、こないだの……。 (数枚捲り) 何これ？ 姉さん、何やってんの？  
ミドリ え？

シゲル ドリフとか、年がバレるぞ。 (と、ミドリに一枚渡す)  
ミドリ ……。

シゲル、新聞の記事に目を留めた。

シゲル (新聞を手に取り) やっぱり、こないだのも、そうだったんだ。  
ミドリ え？

シゲル その火事。向かいのマンションの。連続放火魔のシワザだったみたい。 (犯行現場に、犯人の物と思われるライター) だって。

ミドリ ああ……。  
シゲル さっさと捕まってくればいいのに……。

シゲル、去る。  
低く、エアコンの音。

アキコ ちよつと涼しすぎない？

ミドリ え、そう？

アキコ ホントは好きじゃないのよ。エアコンの風。

ミドリ ふうん……。

アキコ、リモコンを手に取り、エアコンを止める。  
居間を満たしていた低いノイズが消える。

アキコ 帰ってもらうつもりだったの。

ミドリ え？ なぁに？

アキコ お父さん。（椅子に戻り、再び衣服をたたみ始める）どっちにしても、そろそろむこうの家に帰ってもらおうと思ってたの。

ミドリ まあた。リエコさんに対抗して、ママまでそんな意地張ることないのよ。

アキコ ……。（無言で服をたたんでいる）

ミドリ ……嘘、でしょ？



アキコ 嘘じゃないわよ。

ミドリ ちよと待ってよ。どういふこと？

アキコ だって意味がないでしょ。

ミドリ 意味？

アキコ あんたたち二人が大きくなるまでは、いてもらわなくちゃ困るって思ってたけど……もう、

春には孫も生まれてくるんだから……。

ミドリ 何よ、それ。なんでそうなるのよ!?

アキコ ……。

ミドリ リエコさんから何か言われた？

アキコ 何かって？

ミドリ あたしが聞いているの！

アキコ べつに、何も。

ミドリ お父さんと、何かあったの？

アキコ ううん。

ミドリ じゃあ、なんで？

アキコ ……。

ミドリ わかんない！

アキコ、手を止め、娘を見る。

再び服をたたみ始める。

ミドリ ……そのこと、お父さんには、話したの？

アキコ そのこと？（たたんだ服をダンボールにしまう）

ミドリ だから……。

アキコ （顔を上げ、窓の外に目をやり）あ。マサヤくん、帰ってきた。  
ミドリ え？

アキコ、立ち上がる。窓のそばへ。

アキコ ああ。あの様子じゃ、また面接駄目だったのかな。（見上げて）あ。もう、人が住みはじめ

たのね。ベランダに洗濯物が干してある。

まぶしげに目を細めるアキコ。

ミドリ ……。

と、突然、扇風機がまわり始めた。

ミドリ (振り向き) ……!?

ヒグラシの声。  
扇風機は静かに首を振っている。  
その姿を残しつつ、溶暗。

〈幕〉